

# 図書館タイムズ 2019年11月号

人吉高校記念図書館 令和元年11月7日発行



「図書館まつり」はいかがでしたか？毎年、展示の「魅せ方」にも工夫を凝らしているメイン企画（広用紙での本の紹介）は、引き続き図書館内で展示しています。図書館まつりの期間中に見逃した…という方はぜひご覧ください。

紹介している「心に残る一行」から、読みたくなる新たな本に出会えるかもしれません！

また、図書館まつりの期間中にみなさんに投票してもらった、コンテストの結果も感想とともに掲示していますので、ぜひ見に来てください。



## 特集

### \* 滞行 \* 身近な自然をよむ (読む&詠む)

11/20 (水) には滞行がありますね。「相良三十三観音めぐり」や人吉球磨にある“文学碑”について…など郷土ゆかりの本を準備して

います。身近にある文化・歴史について、歩く前に知っておきませんか？

俳句や短歌の本も一緒にご紹介。歩きながら、季節や言葉について思いを馳せて♪

#### 郷土が舞台の、青春小説

##### 「そらと陸の約束」

観音寺 遼 著/熊日出版 →

6年間で相良三十三観音巡りをしようと決めたのは、中学生のころだった…。過去と未来の時空をこえてシンクロする淡い恋のものがたり。

No  
IMAGE

##### ← 「山頭火を読む」

前山 光則著/海鳥社

著者は、本校の卒業生で元高校教師でもある方。放浪の日々を送った俳人・種田山頭火について論じる。

No  
IMAGE

### \* 読書週間 \*

#### 「まなの本棚」

芦田愛菜/小学館

年間100冊以上も読み、本について語りだしたら止まらない芦田愛菜の紹介する100冊。みなさんと同世代の彼女はどんな本を読んできたのかな！？

No  
IMAGE

### \* 図書館講座 \*

11月13日(水) 放課後 16:30～ 音楽室にて (生演奏も聴ける♪)

「蛇は悪者なのか？」～バッハVSシューベルト～

講師：堀 朋平 氏 (複数の音大で講師をされている、音楽美学の専門家)  
音楽を丁寧に読み解きつつ、神学的な内容にも踏み込む、魅惑の講義です。

\* ただし、参加者受付を **図書館カウンター** にて実施中！



## 7.リニューアル♪あれこれ

図書館は日々変化しています。2学期になってから変わった点をご紹介します！一度来館して利用してみてください♪「使いやすさ」を心がけていますので、みなさんの意見をぜひ聞かせてください！

### NEW! 回転書架

★リニューアルポイント★

カウンターの奥のソファ周辺には、「雑誌」「絵本」「漫画」などリラックする本がいっぱい。その一角に、このたび新たに回転書架が加わり、漫画やコミックエッセイの本が収まりました！



### NEW! 木製椅子

数年かけて、パイプ椅子から木の椅子へ移行完了！今回新たに6脚をふるさと納税にて購入しました。木製の暖かみと、奥行きがあるので腰掛けた感じも good♪

### タブレットパソコン導入

今までのノートパソコン(Windows7)に替わってタブレットパソコンになりました！**Windows 10** になり、**人高HP**や**Classi**へのログインも簡単に♪ (デスクトップ画面にショートカット有り)

### 新聞コーナー移動

図書館にある6紙の新聞は、当日を除く過去の分をまとめて、ロビー (入口すぐの左側) に置いてあります。自由に見てOK!  
※半年～3年分を保管 (新聞により期間は異なる)

### \* 名作へのとびら \*

(図書館教育ニュース第1507号より)

「見知らぬ犬」 『月に吠える』より 萩原 朔太郎 著

夜の町をあてもなくさすらう「私」。その後をみすばらしい犬がどこまでもついてくるという、寂しげで幻想的な風景を描いた詩です。作者が自己を投影しているのは「私」か犬か、あるいは両方なのか、様々な解釈ができそうです。詩人の鋭敏な魂がつづった言葉は今でも読者の心の深い場所に響きます。

萩原朔太郎 (1886-1942) は口語でつづられた自由詩を完成させ、「日本近代詩の父」と呼ばれ、後世に多大な影響を与えました。



「私」は「おほきな、いきもののやうな月」の方へ当てもなく歩いていきます。どこからともなく現れた「見もしらぬみすばらしい犬」が足と尻尾を引きずりながらついてきて、月に向かって悲しげに吠えるのでした。

下の2枚の絵の違いを5か所見つけてください。



※答えと本は、図書館に掲示しています。

感性を育てる場  
図書館講座、次回は